

平成 22 年 4 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009 年
課題番号：18401010
研究課題名（和文） アフリカ女性の社会進出のための伝統の取捨選択に関する研究
研究課題名（英文） Gender and Development in the African Context: Women's Choice to Achieve Full Participation in Traditional Societies
研究代表者
戸田真紀子（ TODA MAKIKO ）
京都女子大学・現代社会学部・教授
研究者番号：40248183

## 研究成果の概要（和文）：

ケニアのイスラーム地域に暮らす女性と聴覚障害者の女性たちへの聞き取り調査を通して、社会の周辺部にいる女性にとっては、貧困対策や職業訓練などの開発プロジェクトの実施に先立って、何よりも教育の機会を得ることが、エンパワーメントに不可欠な経路であるということが明らかになった。

## 研究成果の概要（英文）：

Through the interviews with Muslim women in North-eastern area and Deaf women in rural and urban areas in Kenya, this study has revealed that those women who had been socially and economically marginalized have been empowered by education far more than anything before they are involved in any form of poverty reduction programs or vocational training.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,700,000	0	1,700,000
2007 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	5,200,000	1,050,000	6,250,000

研究分野：人文学 A

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：ジェンダー、開発、伝統文化、教育、言語、ろう者、エンパワーメント

## 1. 研究開始当初の背景

2003年からケニアではキバキ政権発足により初等教育の無償化が導入されたが、北東州のような周辺部にはその恩恵はなかなか届かなかった。また、無償化によってろう者の特殊学級の生徒も増加したが、子どもであふれかえる普通学級の教員を増やすことで手一杯となり、ろうの子どもたちまで手が回らない状況であった。

このような状況下で、ケニア社会の周辺部出身の女性・女子生徒たちのエンパワーメントを考える共同研究を実施する必要性を強く認識していたのである。

## 2. 研究の目的

本研究は、ケニアにおける開発と伝統文化の関係を、女性の社会進出にターゲットを絞って考えていくものである。

まず、ケニアのイスラーム地域を対象として、伝統文化の中のジェンダー格差を当事者である女性たちがどのように排除しようとしているのか、その取捨選択のメカニズムを明らかにすることが、第一の目的である。

また、教育の機会を奪われ、民族語しか話すことのできない女性たちが、社会進出を果たすことができるかどうかについて、農村部における開発プロジェクトの中で、民族語だけを話す女性たちがどのような地位に置かれているのかを調査し、社会開発と言語選択の問題をジェンダーの視線から明らかにすることが、第二の目的である。

## 3. 研究の方法

以下の研究方法が主であった。

(1) 海外の現地調査：最終年度2009年度を除き、研究代表者・研究分担者が行った海外の現地調査が中心的な研究作業であった。

(2) 内外の学会への参加：本研究プロジェクトにおいて行った研究について、その内容の検討や微調整のために内外の研究者やNGO関係者との議論を行った。また、各自がそれぞれ自主的に内外の学会やセミナーにおいて意見交換を行ったことは言うまでもない。

## 4. 研究成果

(戸田真紀子)

戸田は、ケニア共和国北東州ガリッサ県を調査地として、主要民族であるソマリ人（イスラーム教徒）の女性たちが、女性蔑視の慣習によって、教育の機会を奪われ、結婚後も、社会においても家庭においても発言権のない状況を調査してきた。

日本の基準をあてはめると、ほぼ全員が輸血が必要なほどの貧血状態である上に、ケニアでは違法行為であるが、取り締まりがないために、地元女性はほぼ100%女性性器切除(FGM)の施術を受けており、特に出産時に命を落とす大きな原因になっている。

このような慣習に対抗するための女性のエンパワーメントを考えるために、2つの女子セカンダリースクール（NEP 中等学校およびウムサラマ女子中等学校）の校長やスクールカウンセラーへのインタビューを毎年行い、女子生徒の中退の原因を調べた。

通常言われているような貧困問題だけではなく、授業料負担がなくても、伝統的な考え方や早婚などの慣習によって、中退させられる女子生徒の実態が明らかになった。

中退者を減らすことにより、将来この地で活躍できる女性教員、女性看護師・助産師、女医が生まれる可能性が高まり、社会の底辺にいるソマリ語しか知らない女性たちのエンパワーメントを助けることができるようになることも明らかにした。

(宮本律子)

宮本は、ケニア西部にある聴覚障害児童のための2つのセカンダリースクール（セントアンジェラ・ムミアスろう中等女子学校およびクジャろう中等学校）とケニア中部にあるレベレント・ムホロろう中等学校を訪れ、女子学生に、インタビューを行った。また、西部キスム周辺および首都のナイロビにおいて、30名ほどのろうの社会人女性にも聞き取りを行った。

その結果、聴覚障害者に対する偏見と女子教育に対する偏見と女子教育に対する無理解とで、社会的に二重のハンデを背負っているろうの女性たちが、学校の教員（特に、校長などの管理職）や親の励ましによって、教育の機会を得、それによって、自分達の言語（手話）と文化（ろう文化）を獲得している様子が明らかになった。

彼女たちにとっての第一言語（音声言語であれば「民族語」と同等の位置づけにある）は、手話であり、それは、ろう者の集まる場

所でしか習得できない。そして、ろう学校で築かれたろう者ネットワークが、社会開発において大きな力を果たしている実態も、明らかになった。

(2つの現地調査の比較検討)

つまり、この共同研究により、社会の周辺部にいる女性にとっては、貧困対策や職業訓練などの開発プロジェクトの実施に先立って、何よりも教育の機会を得ることが、エンパワーメントに不可欠な経路であるという結論を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①戸田真紀子「アフリカの性器切除と男性優位社会の秩序」『平和研究』31号、89-111頁、2006年、査読有

②戸田真紀子「民主化がもたらした異議申し立て」『国際政治』149号、61-76頁、2007年、査読有

③Ritsuko Miyamoto, Nickson Kakiri: "How do Deaf Women in Kenya View Empowerment by Education" The Proceedings of the 15th World Congress of the World Federation of the Deaf. Madrid, Spain (in print).

[学会発表] (計5件)

①Ritsuko Miyamoto, Nickson Kakiri: "How do Deaf women in Kenya view empowerment by education" The 15th World Congress of the World Federation of the Deaf. (2008.07.19). Madrid, Spain

②戸田真紀子「アフリカ女性の社会進出のための伝統の取捨選択に関する研究(1): 女子高校生の教育の機会を確保するプロジェクトについて」日本アフリカ学会、2008年5月24日、龍谷大学

③宮本律子「アフリカ女性の社会進出のための伝統の取捨選択に関する研究(2): ケニアのろうの女性と教育」日本アフリカ学会、2008年5月24日、龍谷大学

④戸田真紀子「女性の語りから読み解く社会(5) 教育現場と保護者の声」日本アフリカ学会、2009

年5月24日、東京農業大学

⑤戸田真紀子「教育を受けられない子どもたち—ケニア共和国北東州ガリッサ県を例として—」日本国際政治学会、2009年11月7日、神戸国際会議場

[図書] (計4件)

①戸田真紀子編『帝国への抵抗』世界思想社、2006年

②植木俊哉、土佐弘之、戸田真紀子ほか『国際法・国際関係とジェンダー』東北大学出版会、2007年

③戸田真紀子『アフリカと政治 紛争と貧困とジェンダー —わたしたちがアフリカを学ぶ理由—』御茶の水書房、2008年

④初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編『国際関係のなかの子ども』御茶の水書房、2009年

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

新聞記事

秋田さきがけ新報 2009年1月25日朝刊記事「文系のチカラ：秋田大×高橋大輔 『多言語のアフリカは伝え合いでも閉じていない』」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

戸田 真紀子 (TODA MAKIKO)

京都女子大学・現代社会学部・教授

研究者番号：40248183

(2) 研究分担者

宮本 律子 (MIYAMOTO RITSUKO)

秋田大学・教育学部・教授

研究者番号：30200215